

2026年9月3日

ヤマトホールディングス株式会社

日本航空株式会社

スプリング・ジャパン株式会社

ヤマトホールディングスおよびJALグループによる 国内線貨物専用機の運航完了と輸送の最適化について

ヤマトホールディングス株式会社(以下、ヤマトグループ)および、日本航空株式会社(以下、JAL)とスプリング・ジャパン株式会社(以下、スプリング・ジャパン)のJALグループは、現行の国内線貨物専用機(以下、国内線フレイター)の運航を完了することを決定しました。

1. 背景および経緯

両グループは、物流の「2024年問題」などに伴うトラック輸送力の低下といった、物流を取り巻く環境の変化に対応し、安定的な輸送力の確保とサービス品質の維持・向上に向けた新たな輸送手段として、2024年4月から国内線フレイターの運航を開始しました。これまでの運航を通じ、航空輸送の付加価値を多くのお客さまに認知いただくことができました。

現状、トラック輸送は人手不足や燃料高に伴う輸送コストの上昇が避けられない状況となっております。しかし、航空輸送においても継続する円安や燃油高により輸送コストが上昇し、トラック輸送と航空輸送の価格差は当初想定に反して拡大してしまっている状況です。こうした課題に対し、国内線フレイターの運航継続に向けて、費用効率化の推進や路線の見直しによる需給の適正化、フレイターの特性を生かした高付加価値サービスの提供による市場開拓に注力してまいりました。

しかしながら、現在の環境下において、安定した輸送サービスを持続的に提供するためには、国内線フレイターの運航を完了し、旅客便ネットワーク(旅客便ベリー)を含む代替の輸送手段をより一層活用することが最適であるとの判断に至りました。

現行の国内線フレイターの運航は2027年6月までを目途としております。なお、路線ごとに時期が異なる可能性があるため、詳細が決まり次第、本文の末尾に記載のヤマトグループおよびスプリング・ジャパンのWebサイトにてご案内します。

2. 持続可能な輸送サービスと今後の地域貢献に向けて

現在ご利用いただいているお客さまに対しては、旅客便ベリーを含む両グループの輸送ネットワークを活用し、代替輸送手段への円滑な移行を進めるとともに、引き続き安定的かつ持続的な輸送サービスを責任をもって提供してまいります。

特に半導体・自動車に代表される工業製品や農水産品などの需要増加が期待される九州、北海道エリアにおいては、国が国際航空物流拠点としての機能強化を推進する北九州空港や新千歳空港を中心に引き続き旅客便ベリーを含む航空輸送を活用することで、これまでの輸送品質と利便性を維持し、地域ごとの物流ニーズに応じた適切かつ発展的な輸送体制を構築してまいります。

両グループでは、今後も旅客便ベリーを含む経営資源の活用やノウハウの共有を通じ、持続可能な物流ネットワークの構築に向けて、国の総合物流施策大綱に示される「新モーダルシフト」の推進に寄与するとともに、地理的優位性などの各地域の特性を生かした地方創生への貢献や地域の産業発展・輸送促進に引き続き連携して尽力してまいります。

これまで国内線フレイターの運航を支えていただいたすべての皆さまに、心より感謝を申し上げます。

(ご案内Webサイト)

ヤマトグループ: <https://business.kuronekoyamato.co.jp/news/>

スプリング・ジャパン(運航スケジュールURL): <https://jp.ch.com/flights/sjocargo-dom>

以上